

# とつけき! おもしろ博物館

～むかしのくらしをたんけんしよう～

## 展示案内書

前期展示 平成18年9月26日(火)  
～11月26日(日)

後期展示 平成18年12月1日(金)  
～平成19年2月4日(日)

### 観覧料

一般500円 高校生200円 小中学生100円

(小中学生先着5000名まで無料)

本書は、当館のウェブサイト  
<http://www.thm.pref.miyagi.jp>からPDFファイル  
として取り出せます。ご活用ください。

## 目 次

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 展示全体概説             | 3     |
| (前期展示)             |       |
| 食べ物をとる・育てる         | 4～5   |
| 装いの意味              | 6～7   |
| お店のむかし             | 8～9   |
| 台所と食事の風景           | 10～11 |
| まじないの世界            | 12～13 |
| 学校たんけんたい           | 14～15 |
| (後期展示)             |       |
| 明かりと暖房             | 16～17 |
| 旅行のすすめ             | 18～19 |
| 職人のしごと             | 20～21 |
| 知る・伝える             | 22～23 |
| 遊びのなかま             | 24～25 |
| 関連事業 とつげき！歴史体験の案内  | 26～27 |
| 利用案内（見学予約等の問い合わせ先） | 28    |

- 1 本書は平成18年9月26日(火)より平成19年2月4日(日)までを会期とする特別展「とつげき！ おもしろ博物館 ～むかしのくらしをたんけんしよう～」の展示案内書である。
- 2 本書に載せる図版は展示品の一部であり、本書の掲載順序と展示の列品順序は異なる場合がある。
- 3 本書の執筆・編集は館員の協議をへて後藤彰信・山田晃弘・須賀正美・千葉正利・及川宏幸・水沼節郎・籠橋俊光がおこなった。
- 4 本書は、当館のウェブサイト URL <http://www.thm.pref.miyagi.jp> から PDF ファイルとして取り出すことができる。ご活用を願う。

# 展示の概要

今回の展示では、こどもたちの日常生活のなかでみられる興味ある11のテーマをとりあげます。人々の毎日の暮らしが、どのような道具を使い、工夫をしながら今日まで変わってきたのかを、こどもたちの視点からでもわかりやすく紹介します。クイズ形式や体験できる資料などを通じて、学校での授業とはまた違う、博物館資料のものがたる「おもしろさ」も演出します。また昔の人々の知恵や技術にせまる各種の体験教室も開催し、博物館を楽しんでもらうことも目的としています。

小中学校の授業の一環としての活用や、家族で楽しくコミュニケーションをとりながら、博物館で楽しい一日を過ごしていただきたいと思います。

前期・後期で大きくテーマが入れかわりますので、2回に分けての御見学をお待ちいたしております。



**前期展示** 9月26日(火)～11月26日(日)

テーマ：食べ物をとる・育てる、装いの意味、

お店のむかし、台所と食事の風景、まじないの世界、学校たんけんたい

**後期展示** 12月1日(金)～平成19年2月4日(日)

テーマ：明かりと暖房、旅行のすすめ、職人のしごと、台所と食事の風景、

知る・伝える、遊びのなかま

今回の展示の開催にあたり、資料の御提供その他御協力・御支援をいただきました方々  
機関

石巻文化センター 一関市教育委員会 (株)岩手県南外務摺沢支店 北上市立博物館

しばたの郷土館 白石・人形の蔵 仙台市歴史民俗資料館 多賀城市教育委員会

東北大学附属図書館 独立行政法人日本スポーツ振興センター 登米市教育委員会

登米市教育資料館 登米市歴史博物館 日本白墨工業(株) 福島県立博物館 福島市

教育委員会 村田町歴史みらい館 毛利コレクション整備推進室 山形県立博物館

亘理町立郷土資料館 (株)ヤンマー農機東日本宮城カンパニー

個人

青木章二 浅黄喜悦 阿部遵 安部実 石黒伸一朗 遠藤裕悦郎 及川新吾 及川健治

及川雅裕 及川五郎 小野寺智哉 小野寺和伸 梶山秀樹 菅野達雄 菊地逸夫 菊地吉平

小玉敏 酒井亜希子 櫻井隆弘 佐藤幸一 佐藤好一郎 佐藤雅也 佐藤裕史 志羽久法雄

鈴木孝行 鈴木光範 菅原透 菅原弘樹 清野良彦 高橋仲至 高橋洋 千葉賢一 成田暢

皆川正康 宮本淳司 毛利伸 森幸彦 山田雄太郎 山田紀子 横須賀倫達 吉野和昌

吉田勝太郎

# 食べ物をとる・育てる

～食べ物がなくては生きていけません～

今はお店に行けばいろいろな食べ物を買えますが、縄文時代の大昔からちょっと昔の時代まで、人々はとても苦勞をして自分たちで食べ物を手に入れていたのです。

## 主旨と構成

どの時代でも食料を手に入れるのには多くの工夫と苦勞がありました。縄文時代には、季節によって移り変わる自然の恵みの中から、秋に木の実を多量に集めて1年中の主食とし、さまざまな道具を工夫して動物や魚を手に入れていました。弥生時代以降もさまざまな食料がありましたが、ここでは米作りに焦点を絞り、仕事を効率的にするために農耕具をどのように改良していったのかを、米作りの工程ごとに紹介していきます。

| テーマ      | コンセプト           | 内容   | おもな展示資料   |
|----------|-----------------|--|---|
| 食べ物を探したせ | 森・海・川のめぐみ       | 縄文人は、森や海・川のめぐみを上手に利用していました。魚・貝・獣・山菜など、いろいろなものを食べていた縄文人ですが、主食はクリやドングリなどの木の実だったのです。                          | 「採集」クリ・ドングリ・榎の実<br>「狩猟」石鏃・弓矢復元・石槍・イノシシの骨・肋骨<br>「漁撈」釣り針、錘・ヤス・モリ・ヤスの復元・マグロ骨・貝など                       |
| お米を食べたい！ | お米をつくる          | 弥生時代に朝鮮半島から水田でお米を作る技術が伝わりました。しかし初めからたくさん収穫できたわけではありません。長い間大変な苦勞と努力を積み重ね、なるべく効率よく、たくさん収穫できるような工夫を凝らしてきたのです。 | 「米作りの参考書」農業全書・農具便利論<br>「耕す」古代の鍬・備中鍬・初期の耕耘機と田植機<br>「収穫」石包丁・鉄鎌・稲刈機<br>「脱穀」千歯扱・足踏脱穀機・籾摺り臼・唐箕・豎杵と臼・千石通し |
| 食べ物の歴史   | これっていつから食べていたの？ | ニンジン・ナス・ジャガイモ・キュウリ・ハクサイ等の野菜。ニワトリ・ブタ等の肉。クジラ・フグ・ウニ等の海産物はいつ頃から食べられたのか、問題形式で楽しく紹介します。                          |   |

## 資料の見どころ

### イノシシ(剥製)(縄文時代)

イノシシの剥製と弓矢の模型によって縄文人の狩猟の様子を再現します。縄文人は、秋にたくさん採集した木の実を保存して1年中の主食としましたが、男たちが獲ってくるシカやイノシシもまた重要なごちそうでした。



## 耕す道具 - 平鍬・風呂鍬・備中鍬（古墳時代・現代）



古墳時代から現代までの田起こしの道具。耕す仕事はもともとは鍬1本の力勝負でした。鍬は、弥生～古墳時代には先まで全て木で作られ、次第に鉄の刃がつけられるようになります。これは風呂鍬として現代まで引き継がれます。先が3～4本に分かれた備中鍬は江戸時代に考案され、粘土質の土を耕すのに威力を発揮し全国に普及しました。100年程前からは西洋スキが導入されて馬や牛にひかせて耕すようになりましたが、40～50年前に動力耕耘機が普及し人力の10倍近く能率が上がるようになりました。

## 石包丁と稲刈り鎌（弥生時代・現代）

弥生時代と現在の稲刈り道具。弥生時代は、石包丁で稲の穂だけを切り取って収穫していました。鉄製の鎌で根本から刈りとるのは古墳時代になってからです。この方法は、約50年前に稲刈り機が発明されるまでずっと変わらなかったのです。



## 千歯こき（江戸時代～近代）

稲穂から籾をはずす道具。脱穀作業は、江戸時代中頃に千歯扱きが考案されて画期的に早くできるようになりました。それ以前は2本の竹に挟んで数本ずつしごいて籾をはずしていたのです。大正時代になるとさらに2倍くらいの効率が上がる足踏み脱穀機が現れますが、使い慣れた千歯扱きを昭和の初めまで使う農家もありました。



## 関連する歴史体験

縄文時代のくらし 10月22日(日) 要予約

縄文時代の人々は魚を捕るときに丸木舟を使いました。博物館職員が手作りした現代の丸木舟に乗って博物館の池を航海できます。同じ日に、縄文人が食べていたどんぐりを実際に食べてみる体験、縄文時代の布の編み方の体験もできます。

|          |                            |           |               |
|----------|----------------------------|-----------|---------------|
| 丸木舟をこぐ   | 10:30・12:30・13:30・14:30 実施 | 所要 15分    | 各回定員 20名(要予約) |
| どんぐりを食べる | 11:00・14:30 実施             | 所要 1時間    | 各回定員 10名(要予約) |
| 縄文の布を編む  | 13:00 実施                   | 所要 1時間30分 | 定員 10名(要予約)   |

縄文時代のくらし 12月3日(日) 要予約

縄文人が狩猟の際に使用した石器のヤジリを黒曜石を材料に作ってみます。また屋外では丸木で作った弓を使って、縄文人が獲物にした動物たち(パル絵)を狙ってみます。

|            |                            |        |               |
|------------|----------------------------|--------|---------------|
| 石器づくり      | 11:00・14:30 実施             | 所要 1時間 | 各回定員 10名(要予約) |
| 弓矢でえものをねらう | 10:30・12:30・13:30・14:30 実施 | 所要 15分 | 各回定員 20名(要予約) |

石で布を切ってみよう! 会期中連日 3階こども歴史館にて実施

黒曜石の破片で実際に布を切ってみます。現代のはさみと切れ味を比べてみましょう。

# 装いの意味 ~身を飾り、目立たせるのはなぜ?~

人々は大昔から自分の身体を飾るため、さまざまなものを身につけてきました。「なぜ?」という、自分を目立たせることの意味については、それぞれの時代の社会的な背景がみられます。

## 主旨と構成

自らの身体を飾るための装身具は、縄文時代には呪術的な意味を持つものと考えられています。奈良時代以降は衣服の色調や冠・金具を綴じ付けた革帯の存在が、また武家社会では刀や甲冑などが、身分・役割などをあらわす標識として、集団内部で認識されるようになりました。いずれも人間の美的欲求以外の側面が極めて強いものが多くありました。それに対して近世以降、美しくありたいという本能的な感覚にもとづく、美的欲求を満足させるための装身具が多く発達し、身体をより美しく見せることを主目的とした装身具を数多く着用するようになりました。

| テーマ          | コンセプト      | 内容  | おもな展示資料                                   |
|--------------|------------|---|---|
| 呪術的なアクセサリ-   | 自分の身を守るため  | 災いから逃れたり、幸福を得るためといった、呪術的な意味合いをこめて、髪・耳・首・腰・腕などに装身具を身につけたと思われます。  | 勾玉・翡翠製大珠・土製耳飾り・髪飾り・貝製腕輪・鹿骨製腰飾など縄文時代の装身具   |
| 身分を現すアクセサリ-  | 役人の身分をあらわす | 人々に身分がある社会では、高い身分であることを視覚的に現すため、さまざまな装身具や衣装を儀礼などに際して身につけていました。  | 耳輪・瑪瑙製勾玉・ガラス製トンボ玉・鉄刀・腰帯金具・下級役人衣装など古代の装身具  |
|              | 武士の身分をあらわす | 武士たちは戦いに際して動きやすい装束を身につけるとともに、一般庶民とは異なる、身分を現すために武器や小物を身につけていました。やがて平和な時代になると、個性や趣味に応じた装身具を身につけることに競い合いました。 | 番具足復元品・直垂復元品・半袴復元品・甲冑・脇差・刀装具など武家社会の服飾・装身具 |
| まわりの人に美しくみせる | 女性の身だしなみ   | 自分自身を美しく飾る髪飾りや、化粧品の販売が広くおこなわれ、見た目を美しくしたいという気持ちを満たすため、身を飾るようになりました   | 日本髪飾りとしての簪・笄・櫛・柄鏡・鏡台・西洋化粧品・販売促進のための広告     |
|              | ハレの衣装      | 人生の節目や、特別なお祝いの日には、その日のための特別な衣装を身につけて、周りの人々にアピールしました。  | 婚礼衣装・万祝着・宮参り衣装                            |

## 資料の見どころ

### 根岸遺跡出土 勾玉 (縄文時代)

東北地方出土の勾玉の中でも最古の部類に属する縄文時代晩期のものです。この他にも岩版・岩偶・石棒等の呪術的なものが発見されたことから、墓に埋葬された人物に関連するものと考えられます。動物の牙に穴を開けた形をしており、これを身につけることで、動物のもつ威力を身につけようとしたとも考えられています。





### 山根前遺跡出土トンボ玉・勾玉・ガラス玉

(登米市教育委員会蔵) (奈良時代)

トンボ玉はガラス玉に模様を付けたもので、中国大陸に起源をもちます。旧石越町のこの遺跡からは、中央政府から賜与されたと思われる、大量のガラス玉や勾玉、管玉、切子玉が発見されており、都から遠く離れたこの地に葬られた有力者が、都の貴族たちと極めて強く結びついていたことを証明しています。



### 金小札五枚胸具足(江戸時代)

仙台藩主八代伊達斉村が着用したものの。13才の時におこなった「具足着初め」の式に着用したものでしょうか、金色で豪華な装いの具足です。

### まいわいび方祝着 (昭和29年)

漁民たちの晴れ着で、船主が大漁を祝って船子を集めて祝宴を催し、その際に引き出物として配られたそろいの法被。気仙沼地域では「カンバン」ともいわれます。模様には縁起の良い絵柄などが描かれています。



### 関連する歴史体験

縄文時代のくらし

10月22日(日) 要予約

縄文時代の布を製作するときに使われた技法をもとに、麻糸で編布を作ってみます。

縄文の布を編む 13:30 実施 所要1時間30分 定員10名(要予約)

古代の玉をつくる 11月5日(日) 要予約

古代の技法をとりいれながら、古代人の権威の象徴、威儀具として珍重された玉各種を製作します。

い型でつくるガラス玉 10:30・12:30・13:30・14:30 実施 所要30分 各回定員8名(要予約)

かっ石でつくる勾玉 11:00・14:30 実施 所要1時間30分 各回定員40名(要予約)

トンボ玉づくり 13:00 実施 所要1時間30分 定員10名(要予約)

平安貴族のくらし 11月19日(日) 要予約

平安時代の女房装束のひとつ小袷を着て、貴族の女性に変身してみます。

こうちぎを着る 11:00・14:30 実施 予約時間制一人15分 各回定員5名(要予約)

縄文時代のくらし 12月3日(日) 要予約

縄文時代の女性が挿した、赤漆を塗った装飾性の高い木製の櫛を作ってみます。

縄文のクシづくり 13:00 実施 所要1時間30分 定員10名(要予約)

昔の衣装を着てみよう! 会期中連日 3階こども歴史館にて実施

縄文時代の服を想定復元したカラムシ製の衣装や、国府多賀城の時代の下級役人が身につけた衣装の着心地を試してみます。

# お店のむかし

～いらっしゃい！まいどあり！～

今も昔もお店の人は、お客さんを集めるくふうをしています。昔のお店は、おもしろい看板をかけた、きれいなポスターをはったり、お店の名入りの品物を配って、宣伝をしました。そのころのお店のようすを見てみましょう。

## 主旨と構成

商人が、買い手の興味を引きつけるためのさまざまな工夫をしてきたことを紹介します。店頭にした看板、得意先に配った引き札・店名入りの粗品、化粧箱など、実際に使われた資料をたくさん展示します。また、商人と客が、「必要なものを必要なだけ」売り買いするというという、量り売りの方法を体験を交えて紹介します。

| テーマ           | コンセプト             | 内容  | おもな展示資料                         |
|---------------|-------------------|---|---------------------------------|
| お客さん、いらっしゃい！  | お店の前には看板だ！        | 見ただけで何を売っているかがわかる看板、重量感のある看板には人を引きつける力があります。                              | 木製看板                            |
|               | お得意様には引き札だ！       | 引き札とは、店名と取り扱う商品名を印刷した広告用の刷り物です。多色刷りの引き札には、人の目を引きつける華やかな効果があります。           | 引き札、商店名入りの品物                    |
|               | きれいな箱とポスターで店先を飾れ！ | 大量生産のビールや飲料を宣伝するポスターが店頭に掲げられ、またその商品自体もきれいなラベルや化粧箱で飾られるようになりました。           | エビスビール法被、エビスビール木箱、ポスター、化粧箱、ビール瓶 |
| 量って売って、まいどあり！ | ほしい人にほしいだけ！       | 量り売りは、枡や秤で計量して、売り買いする取引でした。穀物やお酒、醤油などは、買い手に容器を持参させて、「必要なものを必要なだけ」、販売しました。 | 枡、棹秤、上皿棹秤、貧乏徳利、算盤、帳場机、貨幣・紙幣     |

## 資料の見どころ

### 木製看板「扇屋膏」(明治時代)

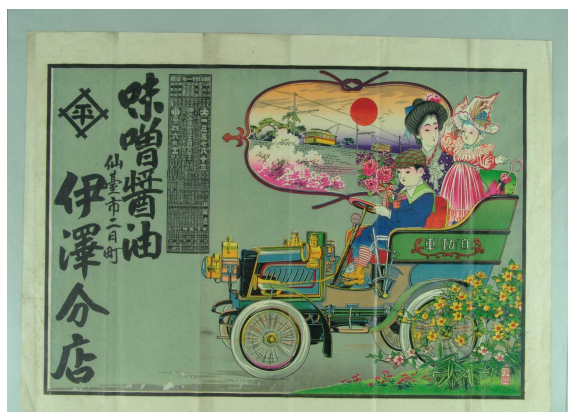
長野県松本町(現松本市)の薬店が製造していた、湿疹やできもの(「くさ」)や、こどもの皮膚疾患(「たいどく」)に効くという軟膏の看板です。貝殻のかたちをしているのは、当時軟膏は、貝殻を容器として、売られていたことが多かったためです。





### 引き札（明治時代）

仙台市内二日町で味噌と醤油を商っていた伊澤分店の引き札です。引き札は、自店名と取扱商品を入れて配布された広告用の刷り物です。明治41（1908）年の暦と、当時は珍しかったであろう自動車と、まだ仙台に存在しなかった路面電車が刷り込まれています。さぞ、市民の目を引いたことでしょう。



### 上皿棹秤（大正末から戦前）

先端に付属の分銅を載せ、上皿に載せた計量物とのバランスをとりながら、比較計量する仕組みです。これはそれ以前の竿秤の仕組みに乗っ取って、固定台と分銅を用い、狂いなく計量できるようにしたものです。頑丈な造りで狂いも少なかったため、八百屋・肉屋などの店頭で使われている光景が、長い間よく見られました。

### 貧乏徳利（明治から大正末頃）

酒の小売りは、付けで買うことが一般的であったため、陶器の徳利を貸して販売しました。宣伝効果も期待され、徳利の表面には店名や酒の銘柄や電話番号などを入れました。この容器が酒屋と家庭を往き来したわけです。



### ミッションジュースポスター（戦後）

米国のメーカー、ミッション・ビヴァレッジ社の日本法人のポスターです。このようなポスターが店頭に掲げられ、販売促進の機能が期待されました。



## 関連する歴史体験

お店の人になってみよう！ 会期中連日 特別展示室内にて実施  
昔の相対取引で必要であった秤を使って実際に商品を計ってみるにより、量り売りを体験します。

# 台所と食事の風景

～こんなに変わった！ 料理の仕方と食事の様子～

システムキッチンでの調理とダイニングでの家族団らんの食事。今ではこんな明るく楽しい風景があります。しかし水道・電気・ガスのない昔の台所仕事はととても大変でした。食事もみんなで黙って食べ、おしゃべりは行儀が悪い、とってしかられる時代もあったのです。

## 主旨と構成

暖かい煮物を食べられるようになった縄文時代から、ダイニングキッチンを備える今日まで、調理と食事の方法は大きく変化してきました。煮ることを可能とした土器や調理専用施設カマドの出現、居間の中心であるいろり、チャブ台の登場からダイニングキッチンへ、等のポイントをあげてその変化を紹介します。

| テーマ             | コンセプト             | 内容   | おもな展示資料                                    |
|-----------------|-------------------|--|--|
| あったか煮込み料理<br>登場 | 土器の出現と煮込み料理       | 土器が発明されてはじめて煮ることができるようになりました。これにより食べられるものがぐっと増えたのです。縄文にユ-は主食もおかずも一緒に煮込んだ煮込み料理です。                         | 縄文土器深鉢・弥生土器甕・石皿・磨石・木の実・炉復元                 |
| 煮炊き専用の場所<br>カマド | カマドの出現と蒸した米       | カマドが朝鮮半島から伝えられ、竪穴住居の土壁に作りつけられます。初めての調理専用施設の登場です。この時代、お米は蒸して食べていたのです。                                     | カマド復元・須恵器大甕・甑・甕・役人の食事想定復元・匙・箸              |
| ちょっと昔の台所と<br>食事 | 大切な場所「いろり」        | 居間のいろりにはいつも火がありました。ここは鍋をかけているいろりな調理をする場所であり、火で温まる場所でもあり、家族が集まるとても大切な場所でもありました。                           | 囲炉裏復元・自在鉤・鉄鍋・火棚・火箸・弁慶・灰掻・杓子・鉄瓶・五徳・石臼・搦鉢・焙烙 |
|                 | お米をよりおいしく         | 床を貼っていない土間の隅にカマドが作られました。ここで羽釜を使って炊くご飯はととてもおいしいものでした。   | カマド・羽釜・火吹竹・火消壺・十能・米櫃・杓文字・枳・熾き運び・七輪         |
|                 | 使いやすい台所           | 江戸時代まで台所仕事は座ってしていました、立って使う流しが登場して炊事の仕事をずいぶん楽になったのです。   | 人造石研ぎ出し流し・ササラ・ざる・たわし・鯉節削り・ひしゃく・水甕・氷冷蔵庫     |
|                 | 家族団らん<br>- チャブ台登場 | 世の中の洋風化にあわせて食卓も変わりました。家族が平等に料理を囲み、会話を楽しみながら食べる食事風景の出現です。   | 箱膳・チャブ台・ご飯茶碗・汁碗・手塩皿・箸・醤油差・どんぶり             |
| 台所大変身           | 電化とダイニングキッチン      | ガスや電気のおかげで、薪を用意して燃やす苦労がなくなると同時に台所が清潔になりました。コンロ、流し台、調理台を一列に並べ、その横に椅子とテーブルをおいたダイニングキッチンは、台所仕事をとても効率的にしました。 | ガスコンロ・ガス炊飯器・電気炊飯器・保温ジャー、ダイニングテーブル、イス       |

## 資料の見どころ

### いろりと鉄鍋（参考 今野家住宅より）

いろりに自在鉤を使って鉄鍋を吊り下げます。周囲には関係する道具を並べて、いろり周りの復元をします。これによって、ここがおかずや汁を調理する場であるとともに、採暖と採光の場でもあり、なにより家族が集まる大切な場であったことを示します。また、主人・主婦・子供の席などが厳格に決められていたことも、イラストなどを使用して表現します。



### カマドと羽釜（参考 今野家住宅より）

実物のカマドに羽釜をのせ、周囲に薪を燃やすのに使われる様々な道具を並べ、ご飯を炊いている状況を復元します。薪を燃やして火加減を調節する主婦の仕事がとても大変であったこと、一方でカマドではとてもおいしいご飯が炊けたことを紹介します。



### ちゃぶ台（昭和 30 年代）

ちゃぶ台に家族 4 人の食器を置き、お茶道具や飯櫃も添えて、団欒の食事風景を復元します。また、これと比較するためお膳を別に置き、以前の食事は個人個人の膳に料理が配られ、おしゃべりは行儀が悪いとして禁じられていたことなども紹介します。



### 料理の起源コーナー

今日おなじみの様々な料理や店で売られている食品が、いつから食べられるようになったのかを、意外性のあるもの、納得のいくものをまじえてクイズ形式のイラストにして紹介します。

## 関連する歴史体験

平安貴族のくらし 11月19日(日) 要予約

奈良・平安時代の都に住む貴族たちは、中国大陸から伝わってきた製法で「蘇」「唐菓子」などを口にしました。「蘇」は牛乳を材料に、「唐菓子」は米粉を練って蒸したものです。同じ日に貴族の遊び「ぎっちょう」体験や、貴族女性の衣装「小袿」を着てみる体験もできます。

古代食・粉熟づくり 10:30・12:30・13:30・14:30 実施 所要 15 分 各回定員 10 名(要予約)

むかしのくらし 1月21日(日) 要予約

小麦や蕎麦、大豆を石臼で粉にすることにより、料理の種類がぐっと増えました。

石臼をひく 11:00・14:30 実施 所要 20 分 各回定員 10 名(要予約)

# まじないの世界

～魔除けの方法・幸せをまねく方法教えます～

疫病・火難・害虫被害・家運衰退など、さまざまな魔・災いを祓うために使われてきたものを紹介します。さらに幸せを招くために使われてきた縁起物・招運グッズ類も紹介します。

## 主旨と構成

私たちは日々さまざま困難・災いに直面し苦悩します。また大願成就を願う場合もあります。いずれの場合も、自力で解決出来ない際には、神仏に願いを託しました。そのような人の願いのありさまを、絵馬を通して見ていきます。次に、世の中には疫病・火難・害虫被害・家運衰退など、さまざまな魔・災いがあります。これら災厄を避ける・追い祓うために、使われるものと方法を紹介します。さらに少しでも幸福に近づき、福を招くために使われるものとして、縁起物・招運グッズの数々を紹介します。

| テーマ         | コンセプト   | 内容  | おもな展示資料   |
|-------------|---------|---|---|
| 人の願いは十人十色   | 願いごと    | 絵馬に描かれた図柄から、人々の様々な願いを探ってみましょう。  | 絵馬(祈願、除災、招福、大願成就)など                                       |
| 魔除けの方法教えます  | 災いをさける  | 寺社発行の様々なお札類、家々で執り行われたまじないの数々、家・家族を守護する御神体、魔を祓う縁起物など、日常生活の各面でおこなわれたさまざまな魔除けに使われるものと、その方法を紹介します。  | お守り・お札・ヒトガタ・ワラ製人形・蘇民将来・茅の輪・サッパ船・カマ神・虫除けお札・牛玉宝印・猿ミイラ・オシラサマ |
| 幸せを招く方法教えます | 幸せになりたい | 年始めに幸福を願って飾られる縁起物、一年の豊穡祈願の儀式に使用される作り物類、古くから「持っている福が舞い込む」とされる招運グッズ類など、幸せを招くために使われるものとその方法を紹介します。 | イワイホウ・ハミ・小正月の箸・松川ダルマ・福助・お多福・天神様・招き猫                       |

## 資料の見どころ

### 絵馬(昭和時代)

これは、絵馬の中でも「小絵馬」と呼ばれるもので、悩みごとの解決を願って社寺に奉納されます。これは群馬県太田市辺りに見られる絵馬で、眼病平癒祈願のものです。絵馬と言えば馬が描かれているものを想像する人が多いですが、小絵馬にはこの他に神仏像・礼拝姿・干支等の絵柄も見られます。



### オシラサマ

東北地方の旧家などに祀られている家の守り神です。写真の資料は馬と姫をかたどった一対の木棒で、昭和46年頃まで旧唐桑町の某家に祀られていました。オシラサマの祭礼のたびに、布が着せ加えられていったものです。この他に他家のオシラサマには、男女一対のもの、芯が竹製のものなどがあります。



### イワイボウ



小正月の豊穰儀礼に使用される木棒です。1月15日早朝、子供たちが集落の家々を訪問しながら、この棒で家の雨戸を叩き、来るべき新年の豊穰・豊作を祝う儀礼をします。戦前には宮城県牡鹿半島周辺の各所に見られた儀礼ですが、現在は廃れて久しいです。この資料は、昭和40年代まで雄勝町大浜地区で作っていた物を、復元製作したものです。

### カマ神

竈の上の柱や壁面に、家の守り神として祀られたもので、土製と木製とがあります。宮城県から岩手県南部にかけて見られる独特のものです。写真の資料は旧北上町の旧家に祀られていたカマ神で、土製で目に陶器を用いている点に特徴があります。



### 松川ダルマ

仙台地方の正月の縁起物として、年の市で売られるダルマで、紙を貼り重ねて作られたものです。顔の回りは青で彩色され、胴体は宝船・福の神・松竹梅などのめでたい絵柄が描かれています。

## 関連する歴史体験

伝統の技にせまる 12月17日(日) 要予約

新年に神棚などに飾る切り紙を作ってみよう。

切り紙づくり 13:00 実施 所要1時間30分 定員10名(要予約)

# 学校たんけんたい ~のぞいてみよう！昔のお勉強~

子どもたちの生活のなかで学校は今も昔も大きな割合を占めています。ここでは学校や勉強が時代によってどのような変化を遂げてきたかを、教材や文房具、給食などに焦点を当てて紹介していきます。

## 主旨と構成

一定以上の年齢の子どもたちが毎日「学校」に通う、教室に机を並べて同じ教科書で同じ内容の勉強をする、現在では当たり前になったこの教育制度は、実は明治以降に導入されたものでした。以後百数十年、学校教育は社会の中に根を下ろし、大きな役割を果たしてきました。その展開やあり方を今に残された様々な資料からたどります。ここでは教科書や文房具などの学びの道具、給食や運動会などかつての学校の姿を伝える数々の資料から、学校と子どもたちの歴史を紹介していきます。

| テーマ           | コンセプト        | 内容  | おもな展示資料  |
|---------------|--------------|---|--|
| お勉強は寺子屋で      | 読み・書き・ソロバン   | 江戸時代には小さな子どもにも生活に必要な勉強をさせるようになっており、庶民は寺子屋で「読み・書き・そろばん」を学びました。武士の子どもたちには、より難しい教育が受けられる場所もありました。        | 往来物・手習手本・算法書<br>四書五経・論語  |
| 「学校」がはじまりました！ | 筆から石盤へ       | 明治時代になると、学校が全国につくられました。子どもたちは、決まった年齢になると学校に通い、定められた授業を受ける仕組みが整えられていきました。学校では新しい文房具として、石盤・石筆などが使われました。 | 尋常小学校教科書・ノート・動物掛図・石盤・石筆・紙製石盤・真崎鉛筆  |
| 70年前の小学校      | ノートとランドセルの時代 | おじいさん、おばあさんたちが通っていた頃の学校に関わるものです。鉛筆・ノートの使用が次第に定着し、今の学校と共通するものが多い見られるようになりました。                          | 国定教科書・試験解答用紙・小学掛図・セルロイド筆入・木製筆入・エベレスト鉛筆・下敷・シャープペンシル・教科ノート・給食・学童服・時鐘・ケヨン・布製ランドセル |
| ちょっと昔の小学校     | 文房具屋さんと給食の時代 | おとうさん、おかあさんたちが学校に通っていた頃のもので、子どもたちに親しみやすい教材が作られ、子どもたちの関心を引く文房具類が数多く登場し、給食や学校行事なども充実していきました。            | 教科書・三菱鉛筆・色鉛筆・計数機セット・ユニ坊主・さんすう掛図・遠足用リュックサック                                     |
| 昔の学校をのぞいてみよう  |              | 寺子屋の机から、昭和初期の机・椅子、つい最近まで使われていた机・椅子など、教室の中の様子を再現してみます。   | 寺子屋机・文箱・オルガン・五五算盤・学校机・椅子   |

## 資料の見どころ

### 手習の手本「千字文」(江戸時代)

寺子屋で師匠からこどもに渡された手習いのための手本。教材には中国の古典、日本の和歌、「往来物」と呼ばれるテキストなどが用いられていました。これは十九世紀の初め頃に仙台城下の商人の子供が学んでいたもので、中国で作られた漢字学習用のテキスト「千字文」による手習いの手本です。「千字文」は千文字の漢字を効率よく学べるように編集されており、漢字と書体を学ぶための便利な教材でした。



### 小学校で用いられていた掛図(明治時代)



明治初年の小学校で使用された掛図の見本帳で、実際の掛図を縮刷したものです。「単語図」とよばれる言葉を教えるものや文章を教える「連語図」、九九表、色表などさまざまな掛図が考案され、教室内で使用されました。掛図は教室で複数の子供達に一齐に同一の内容を教授する格好の教材として広く普及したもので、近代的学校教育のあり方を象徴するものといえましょう。

### 文房具(鉛筆・ノート・筆箱) (戦後~昭和30年代ごろ)

戦後~昭和30年代にかけて販売・使用されていた文房具。こどもたちの筆記用具として鉛筆が普及してからは鉛筆、下敷き、消しゴム、ノートなどが標準的な文房具として定着し、現在も使われ続けています。戦後になると文房具にカラフルで親しみやすいデザインが取り入れられるようになり、こどもたちが文房具をえらんで用いる楽しみが生まれました。



## 関連する歴史体験

昔の学校机に座って勉強しよう 会期中連日 特別展示室内にて実施

おとうさん、お母さんの頃の学校机。一人用のものもあれば、仲良く並んで勉強する二人用のものもありました。使い込まれた机の天板を感じながら、昔の教科書を読み、石盤に石筆で字を書く体験をしてみよう。

# 明かりと暖房

～電気のない頃の夜の暮らし、冬の室内を想像してみよう～

電気がまだない時代の照明と暖房器具のあれこれを見てみましょう。むかしのものの中には、お世話になったなつかしいものがきっとあるはずです。

## 主旨と構成

あなたは急な夜の停電時に、夜の闇を意識した経験はありませんか。ここで扱うのは、そのように主に電気がなかった、夜がほんとに暗い時代の、明かりと暖房器具の数々です。むかしの人は、火を直接おこして燃料に点火し、明かりや暖房に利用しました。明かりには、便利さ、効率の良さ、明るさを求めて、次々に松脂、種油、ロウソク、石油、ガス等を利用し、室内や携帯用の照明としました。また暖房には、今は懐かしい炭、コークス、豆炭、練炭なども用いました。ここではこれらの燃料を利用した照明具と暖房具の数々を紹介します。

| テーマ        | コンセプト                          | 内容  | おもな展示資料  |
|------------|--------------------------------|---|--|
| 火をおこす      | 明かりも暖房も、火をおこすことから始めます。         | さまざまな火をおこす道具を紹介します。昔は火をおこすのは大変でした。  | 火キリ杵・火打ち金・マッチ・ライター・火吹竹   |
| 室内で明かりをとます | 電気がない時代、昔の夜の家の中を想像しよう。         | 江戸時代には、松の根や植物の種油、今とは異なる形をした和燭燭などを使っていました。明治以降になると、石油やガス、電気などが登場し、一般に広まっていきました。  | 松灯蓋・松台石・ヒョウソク・燈台・手提行灯・有明行灯・燭台・手燭・置行燈・吊灯笼・ランプ・吊ランプ                    |
| 夜道を灯して歩く   | 電気がない時代、夜の外歩きを想像しよう。           | 安全で、持ち運びやすさを追求した、手元や足下を照らすために使われる、携帯用の照明具です。  | タスマツ・ガンドリ・提灯・小田原提灯・アセチレンガス灯・手提カテラ・懐中電灯                               |
| 暖をとる       | 冬の室内を暖める。布団の中で暖まりながら寝る。懐から暖まる。 | 室内を暖めるには、木を燃やしたり、炭を使用したり、コークスや石炭、豆炭を利用しましたが、やがて電気がそれらに代わって使われるようになりました。布団のなかで暖まるには、お湯や豆炭、電気で暖まる道具を使いました。冬の外出時には、燃料を小型で安全な器具の中に入れ、懐にしのばせました。 | 丸火鉢・角火鉢・長火鉢・手あぶり・行火・炬燵・炭籠・十能・練炭火鉢・ストーブ・湯タンポ（金属製・陶製）・豆炭行火・電気行火・懐炉・懐炉灰 |



## 資料の見どころ

### アンドン（行灯）

菜種などの油を入れた皿の周囲の四面を、風除けとして和紙で覆った形の照明具。江戸時代には室内用の照明として用いられました。丸形と角形がありましたが、これは角型四角形の形態です。正面の部分を上にスライドさせて、油皿の油を補充します。



### ガンドウ（強盗）

強盗提灯の略称で、ろうソクを用いた屋外用・手持ち用の灯火具。取手を握り持ち、一方向のみを照らし出します。ろうソクを固定する台を2個の金輪に取り付けることで、台が常に水平が保たれる構造になっています。



### アンカ（行火）

炭火を用いた暖房具。灰を入れた円形の火入れに炭火を入れ、ました。火傷しないよう、四角い容器に入れ、炬燵布団をかけて暖まりました。また、アンカを炬燵ヤグラの中に入れ、その上に布団をかけて使用する場合もあり、冬期の移動用暖房具として重宝でした。電気炬燵の登場とともに使われなくなりました。

### 豆炭アンカ（昭和30年代）

豆炭（木炭や石炭等の粉末を団子状に固めた燃料）を用いた暖房具。豆炭は火持ちがよく、安価な家庭燃料として用いられました。この資料は昭和34年以降に製作販売されたもので、昭和30年代から昭和60年頃まで使用されたものです。豆炭は毎日入れ替えます。高温になりやすいため、2年に一度は石綿を取り替え、やけど防止のためカバーをかぶせて使用しました。



## 関連する歴史体験

昔の明るさを体験しよう！

会期中連日 特別展示室内にて実施 会期中連日

当時の室内の明るさを再現します。今の室内と比べてどんな感じがするでしょうか。

金属を楽しむ 2月4日(日) 要予約

むかしの照明具、カンテラ。これを身近にある空き缶を利用してつくります。内部にろうそくを灯してむかしの明るさを体験しよう。

空き缶カンテラづくり 11:00・14:30 実施 所要1時間 各回定員15名(要予約)

# 旅行のすすめ

～可愛い子には旅をさせよ～

見知らぬ土地を旅するという事は、ときどきする不安を感じながらも、わくわくする気持ちと夢を大きく広げる、貴重な体験を得ることのできる機会です。また旅先でおみやげを買って帰り、みんなに配ることも大切な行為でした。

## 主旨と構成

人生はよく旅にたとえられます。確かに旅とは楽しみや、つらさ、さまざまな感動がたくさん凝縮された場でしょう。こどものうちから小規模な旅を経験することは、後には大きな自信になることが少なからずありました。ここでは昔からの旅行の様子を、特に「みんなで旅行」「おみやげ」という点に焦点をあてて紹介していきます。

| テーマ               | コンセプト           | 内容   | おもな展示資料   |
|-------------------|-----------------|--|---|
| みんなの代表で<br>寺社にお参り | 辛い中にも楽しみが       | 江戸時代末の庶民の旅の多くは、地域の代表として、寺社へ参詣する旅でした。徒歩による旅は疲労が多く、天候に左右され、辛いことも多くありました。しかし道中で、新しい発見や楽しみ等の得難い経験もできました。                 | 「持ち物」旅行用心集・往来手形・矢立・巾着・合羽・菅笠<br>「記録」道中記各種<br>「土産」刷り物                   |
| 仲間と一緒に<br>楽しい旅行   | 大量輸送交通機関の<br>発達 | 昭和にはいと、鉄道路線が広範囲に拡大し、大量輸送交通機関がいっそう発達しました。これにより長距離移動の時間が短縮され、肉体的疲労の少ない、安楽な旅行が可能になりました。その結果として、団体旅行に出かける機会が大幅に増えていきました。 | トランク・切符・マント・帽子・ガイドブック・時刻表・駅弁掛紙・鉄道路線案内図・初三郎鳥瞰図・鉄道会社パンフレット、観光バスパンフレット各種 |
|                   | 観光地の売り込み        | 旅行資金を積み立てして、全員が同一行程をとる団体旅行が盛んになりました。また観光を産業としてとらえ、積極的に自らの土地のすばらしさを売り込み、観光客の誘致に乗り出す自治体、観光組織も増えていきました。                 | 団体旅行案内チラシ・観光パンフレット・鳥瞰図パンフレット  |
|                   | 旅行を通じて形成される人間関係 | 仕事や町内会の仲間、同じ学校学年の子どもたちが寝食を共にしながら旅行することは、知識見聞を広めるだけでなく、仲間意識を育てる上でも重要な経験になりました。  | カメラ・三脚・修学旅行しおり・修学旅行みやげ・絵はがき   |
| 何を買って<br>帰ろうか？    | おみやげあれこれ        | 旅先で手に入れるおみやげは、そこに行ったという自分自身の思い出のためだけでなく、旅行に行かなかった人々に配るために必要でした。おみやげの要件は、軽い、かさばらない、どこへ行ったのか誰にでもわかることです。               | 郷土玩具・ペナント・キーホルダー・土産提灯   |

## 資料の見どころ

### 往来手形（江戸時代）

文化10（1813）年、陸奥国白河の人が京都の本山に参詣したときのもの。諸国の関所を通過する際便宜をはかってもらえるよう文章が記されています。往来手形は、旅をする人物が所属する旦那寺が発行しました。



### 駅弁掛紙（昭和初年）

昭和初期の全国の主要な駅で販売された、駅弁に掛けられた包装紙。鉄道に長く乗車する旅行では、停車駅で販売される弁当を食べることが大きな楽しみでした。駅に出入りする弁当業者も「特殊駅弁」とよばれるオリジナルな駅弁を販売するようになりました。その掛紙にも工夫が凝らされ、色彩豊かな、モダンなデザインのものも多く登場しました。



### 吉田初三郎筆 国鉄東北支社観光鳥瞰図（昭和時代）

大正～昭和にかけて活躍した京都の絵師、吉田初三郎による、東北地方の国鉄路線と、その沿線の観光地を描いた鳥瞰図の原画。初三郎は全国各地の名所・都市を、空から鳥の目の視点で眺めた独特の構図による鳥瞰図で描きました。初三郎の描く鳥瞰図の観光パンフレットは、わかりやすさが人気を集め、あちこちで発行されました。



### 郷土玩具・観光地みやげ（昭和時代）

全国各地の観光地には、その場所に観光に訪れたことを記念するさまざまな土産が売られています。代表的なものが観光名所をミニチュア化した置物でした。また、どこへ行ったのかが誰にもわかるように、観光地の名称が大きく書かれていることが、おみやげの重要な要素です。代表的なのが、写真にあるような修学旅行の際に買う「上野の西郷さんと東京タワー」や、会津若松の「白虎刀」です。



## 関連する歴史体験

むかしのくらし 1月21日(日) 要予約

江戸時代の人々が徒歩で旅をする時に履いたワラゾウリを作り、実際に歩いてみよう。同じ日に「和紙をつくろう」「石臼を挽いてみよう」等の昔のくらしも体験できます。

わらゾウリつくり

13:00 実施

所要 1 時間 30 分

定員 10 名 (要予約)

# 職人のしごと

～ちょっと昔の職場体験。職人さんがつくります～

現在暮らしに必要なものはそのほとんどが工場で大量生産されています。したがってその製造過程を見ることは少なくなっています。しかし、ほんの少し前までは「職人」と呼ばれる人々によって身近なところで手づくりされていました。

## 主旨と構成

わたしたちの暮らしの中の品々は、職人と呼ばれる人々の手仕事によって作り出されていました。職人は使い手が欲しいものを、身近な素材を巧みに加工してつくり、自ら販売も行いました。買い手から見れば、つくった人の顔が見え、商品を安心して購入することができました。しかし、現在では、ほとんどの品々が工場で大量生産され、一部の仕事のぞくと、手仕事でものをつくる職人の姿を見ることは少なくなってきました。

| テーマ     | コンセプト       | 内容  | おもな展示資料                         |
|---------|-------------|---|---------------------------------|
| とうふを作る  |             | 現在の豆腐の多くは、工場で作られ、容器に包装され、スーパーマーケットの店頭に並んでいます。しかしちょっと前の時代、豆腐は近所の店で作られ、店先での販売や自転車での行商がふつうでした。 | 豆腐製造箱・豆絞り機・豆絞り布・豆乳桶・豆腐切り・行商用ラッパ |
| 和紙をつくる  | 一枚一枚でいねいに漉く | 和紙は、原料の栽培から始まり、楮を蒸し、皮をはぎ、それを叩いて、最後に一枚一枚漉くなどすべての工程を人の手作業によってつくりあげられます。                       | 和紙製造用漉き枠・漉き桁・漉き船・包丁・なで刷毛・楮      |
| 和菓子をつくる | 和菓子はひとつの芸術品 | 和菓子は米粉・小豆・水飴などの原料を用い、四季折々の催事や行事にあわせたものを、ひとつひとつ手づくりしました。                                     | 菓子木型各種・蒸籠                       |
| 鉄からつくる  | 鉄をやわらかくする   | 鉄を熱してやわらかくし、叩いて形を整えながら、刃物や農具をつくりました。鍛冶屋はその土地で使われる道具をつくる職人として、なくてはならない存在でした。                 | フイゴ・鍛冶道具                        |
| 筆作り     |             | 動物の毛を丹念にそろえて筆先をつくり、木製の軸に差し込んで、一本一本丁寧に手づくりしました。  | 筆製造用具                           |

## 資料の見どころ

### とうふをつくる（昭和時代）

つくられたとうふは、店先での販売や自転車に乗せられて、つくった職人さん自ら行商を行っていました。行商の時に用いられた懐かしいラッパの音を聞いていただきます。

### 菓子木型（昭和時代）

落雁はこの木型に材料をつめてつくっていました。つめる部分ごとに色を変え、色彩豊かな落雁をつくりました。木型はサクラやカシなどの堅い木でつくられました。形には松・竹・梅など、祝儀やお茶うけ用のものや、蓮華の花など法事用のものがあります。このほかにもいろいろな形の木型があり、当館にも多数所蔵されています。さあどんな形の木型があるかな。



### 鍛冶屋再現（昭和時代）

職人さんの代名詞になっている「鍛冶屋さん」。今ではもうほとんど見ることができなくなりました。「鍛冶屋さん」では火床にある木炭にフイゴで風を送り高温にして、そのなかに材料となる鉄を入れ熱し、軟らかくなった鉄をハシで掴んで金床にのせ、鎚で叩いて形を整えながらさまざまな道具をつくりだしました。

今回の展示では、それらの道具が働いていた「鍛冶屋さん」の仕事を再現いたします。



### 和紙づくり道具（昭和時代）

宮城県では白石和紙、柳生和紙などが現在も伝統工芸品として残っています。以前はこのほかにも和紙をつくっていたところがありました。和紙づくりは、原料となる楮などの栽培から始まります。その楮の皮をはぎ、蒸籠で蒸して繊維をとりだします。その繊維を漉き、一枚一枚つくられました。このようにして作れた和紙はとても丈夫なものでした。今回の展示では、実際の作業に使われた道具を見ながら、その作業工程を紹介します。

### **関連する歴史体験**

伝統の技にせまる 12月17日(日) 要予約

和菓子のもとになる砂糖と米粉を材料とし、木型か貝殻を利用して打菓子を作ります。同じ日に「正月飾り用切り紙づくり」「銅鏡づくり」も体験できます。

和菓子づくり 10:30・12:30・13:30・14:30 実施 所要30分 各回定員10名(要予約)

銅鏡づくり 11:00・14:30 実施 所要1時間 各回定員10名(要予約)

切り紙づくり 13:00 実施 所要1時間30分 定員10名(要予約)

むかしのくらし 1月21日(日) 要予約

楮を原料として、水の中から漉き枠をゆらしながら静かに和紙を漉いていきます。

和紙をすく 10:30・12:30・13:30・14:30 実施 所要30分 各回定員10名(要予約)

金属を楽しむ 2月4日(日) 要予約

むかしの人々の技術をもとにして金属をさまざまな行程を経て加工し、役に立つものをつくります。

かじを体験しよう 13:00 実施 所要一人15分(時間予約制) 定員5名(要予約)

砂金とり 10:30・12:30・13:30・14:30 実施 所要30分 各回定員18名(要予約)

# 知る・伝える

～ケータイもインターネットもありません～

携帯電話やインターネットも無い時代、遠くの人と連絡を取り合うのは「郵便」と「電話」で、ニュースを知るのは「新聞」「ラジオ」「テレビ」からでした。

## 主旨と構成

現在、通信網の発達・整備により、どこにいても瞬時にたくさんの情報を得たり、伝えたりできるようになりました。携帯電話やインターネットが普及する以前は、遠く離れた人と人が情報を伝え合うには「郵便」や「電話」がその中心でした。また、世の中のできごとをたくさんの人が知るのには「新聞」「ラジオ」「テレビ」の報道・放送からでした。ここでは情報に関するさまざまな資料を紹介します。

| テーマ           | コンセプト     | 内容   | おもな展示資料  |
|---------------|-----------|--|--|
| 離れた人と連絡を      | 郵便制度の登場   | 切手を貼ってポストに入れれば、手紙は遠く離れた人にも届くようになり、「文字」による情報交換が身近になりました。                  | 郵便ポスト・郵便配達員の帽子<br>郵便配達員の制服・明治、大正、昭和のはがき            |
|               | 電話機の移り変わり | 電話の登場で、遠く離れた人と直接話しができるようになり、「声」による情報交換が可能になりました。                         | 卓上電話機・壁掛式電話機・手回式電話機・ダイヤル式電話機・職業別電話帳・公衆電話<br>赤・青・黄色 |
| 世の中のことを教えてくれる | 新聞の変遷     | 「印刷」で情報を伝える新聞は、はじめは政論中心のものや、社会記事・娯楽中心のものでしたが、しだいに現在のような総合的な内容に変化していきました。 | 明治、大正、昭和の新聞・東日小学生新聞ポスター・毎日小学生新聞                    |
|               | いろいろなラジオ  | ラジオは「音」の情報を、同時に多くの人にすばやく伝えるものです。登場した頃は大型のものでしたが、時代とともに小型で安価なものが普及しました。   | 真空管ラジオ・スーパーラジオ・携帯ラジオ                               |
|               | テレビの登場    | 「音」と「映像」を同時に伝えるテレビの登場は画期的でした。最初は白黒の映像しか映りませんでした。カラーの映像が映るようになりました。       | 白黒テレビ・カラーテレビ                                       |

## 資料の見どころ

### 毎日小学生新聞（昭和26年）

毎日新聞が昭和11年に創刊した小学生向けの新聞で、これは昭和26年発行の紙面です。こうした小学生向けの新聞は、こどもにふさわしい読み物を提供することを目的に発行されました。この号は動物に関する記事が特集されています。



### 真空管ラジオ（昭和時代）

現在では珍しい木製の縦型ラジオです。AM放送のみが受信できました。真空管という部品を使ったラジオで、戦前から戦後まで使用されました。実際に終戦を告げる「玉音放送」を聴いたそうです。



### 白黒テレビ（昭和41年）

「ナショナル TF-61A型」白黒の映像しか映らないテレビです。スイッチをひねっても、すぐには映像が映りませんでした。チャンネルを変えるには、数字のついたつまみを回転させました。



### 600型電話機（昭和時代）

昭和38年から使用された電話機です。広く家庭に普及したタイプで、その色から「黒電話」と呼ばれました。通話するには、相手の電話番号をダイヤルで回しました。



## 関連する歴史体験

昔の電話機のダイヤル、テレビのチャンネルをまわしてみよう！ 会期中連日 特別展示室内にて実施  
昔の電話は数字のついたダイヤルを回していたのです。今はすべてリモコンで操作できるテレビですが、昔はつまみを回転させてチャンネルを変えていました。実際に回してみましょ。

最新の情報データ通信システムを体験しよう。（予定）

株式会社NTTデータ東北の御協力により体験ができます。

# 遊びのなかま

～昔の子供はなにをして遊んでいたの？～

いつの時代でも子どもたちの周りにはいろいろなおもちゃがありました。それぞれの世代の子どもたちが興味をもち楽しんできた、さまざまな工夫や色使い、遊び方をしたおもちゃを紹介します。

## 主旨と構成

おもちゃを使ってみんなで仲良く遊ぶことは、子どもにとってさまざまな新しいものを生み出す原動力となります。ままごとはあこがれの大人の世界を疑似体験させてくれ、ヒーローになりきるおもちゃは、勇気と希望を与えてくれます。ここでは子どもたちに夢と希望を与えてくれるおもちゃの数々を紹介します。

| テーマ           | コンセプト        | 内容  | おもな展示資料  |
|---------------|--------------|---|--|
| おじいさん・おばあさんの頃 | 自分で作るおもちゃ    | 野原や林・川原などの身近な自然の中で、木や竹、木の実や草などの自然素材を工夫して、自分でおもちゃを作って遊びました                                       | 竹とんぼ・ドングリコマ・篠竹鉄砲・お手玉・こま  |
|               | 昔からのおもちゃ     | 男の子は外でメンコ、ベーゴマ。女の子は家の中で着替えやぬり絵・ままごと、人形遊びが中心でした。男女ともに正月には色鮮やかな絵双六や、かるたで遊びました。                    | 絵双六各種・ぬりえ・かるた・ままごと・鬢替え人形   |
|               | 新しいおもちゃ      | おもちゃの新素材として、セルロイドを使った色鮮やかなおもちゃや、ブリキを使った動くおもちゃが工場で大規模生産され、比較的安価に子どもたちの手にも入るようになりました。             | セルロイド・キュービー・ブリキ玩具・紙芝居・コソトゲーム   |
| おとうさん・おかあさんの頃 | 自慢のおもちゃ      | 友達よりも先に新しいおもちゃが手に入ると、それを友達に自慢しました。またみんなが新しいおもちゃを持ち始めると、自分も欲しくなり、おとになにを買ってくれるようせがみました。           | ウルトラマン・黄金バット・仮面ライダー・ヒーローカルタ・ソフビニール人形・ダッコちゃん・グライダー・ルービックキューブ・リアン・日光写真 |
|               | 子どものおもしろい読み物 | 昭和30年代になると、少年少女向けの週刊・月刊雑誌が次々と出版され、特に漫画雑誌は発売の日が待ち遠しいものでした。ただ楽しいだけでなく、科学の興味をひきだす教育的な雑誌も人気がありました。  | 日本少年・赤い鳥・明星・平凡・少年サンデー・少女フレンド・キングダブック                                 |
|               | 駄菓子屋の店先で     | 学校帰りや休日に立ち寄る駄菓子屋には、子どもがお小遣いで買える値段のおもちゃがたくさんありました。おもちゃがお菓子のおまけについているものもあり、おやつと遊びが一緒になった楽しい空間でした。 | 駄菓子屋おもちゃ・グリコボックス・カルケット・アイスキャンデーのぼり・グリコおまけ・ハピスター景品                    |



## 資料の見どころ

### セルロイド製キューピー（昭和戦前）

セルロイドに日本特産の樟脳を混ぜた、半透明な素材で作られています。キューピーは天使キュービッドをモデルにしたアメリカ生まれの人形で、日本でも大正時代以降盛んに作られました。しかしセルロイドは引火性が高いという理由で昭和30年代に生産が停止されました。



### 街頭紙芝居の道具

（登米市歴史博物館所蔵）

登米市で戦前～戦後にかけて上演されてきた紙芝居の道具。移動時には収納箱にもなる舞台や上演時に効果音として使用する銅鑼などがあります。



### ブリキ製ロボット（昭和戦後）

昭和初年からブリキ製の動くおもちゃが多く作られました。戦争中は金属統制により衰退しますが、昭和30年頃に全盛期を迎え、ゼンマイ仕掛けで動くものや、後には電池で動くロボットや自動車、電車など多種多様なおもちゃが登場しました。やがて軽量で製造が簡単なプラスチック製が登場すると急速に衰退していきました。

### 駄菓子屋おもちゃ（昭和戦後）

駄菓子屋はお金の使い方やさまざまな年齢の人との付き合い方、くじによる運不運などが体験でき、社会的ルールを身につけることができる空間でもありました。



## 関連する歴史体験

平安貴族の暮らし 11月19日(日) 要予約

平安時代の貴族たちのあそび「ぎっちょう」を体験してみます。1チーム3人で現在のホッケーのような球をスティックで打ちあうゲームです。今回はトーナメント形式で実施し、チャンピオンを決めます。

ぎっちょう大会 13:00 実施 所要1時間30分 1チーム3名 8チーム（要予約）

むかしの遊び 1月7日(日) 要予約

むかしのおもちゃをつくったり、遊んだり。

おもちゃづくり 10:30・12:30・13:30・14:30 から実施 所要30分 各回定員10名(要予約)

昔おもちゃ遊び 11:00・14:30 実施 所要1時間 各回定員15名(要予約)

ばんすごろく大会 13:00 実施 所要1時間 各回定員10名(要予約)

むかしの遊びにチャレンジ！ 会期中連日 特別展示室内にて実施

展示室内の畳スペースにて自由に昔の遊びが体験できます。土日には昔あそびの達人(ボランティア)に勝負を挑んでみよう。

## 関連行事

# とつげき！ 歴史体験教室

展示を見るだけでなく、展示されている資料に関連するさまざまな歴史体験に挑戦することにより、より深く、楽しく展示を理解していただけます。隔週日曜日にテーマごとに複数の体験をすることができます。費用はすべて無料です。なお全ての体験に定員があり、事前予約が必要なので、(当日空きがあれば当日参加も可能です) 早めにお申し込みください。先着順で締め切ります。

| テ ー マ  |  | 日 程   |
|--|--|---|
| <b>上級体験</b><br>小学校高学年以上大人までを対象とします。長時間にわたりじっくり取り組む体験です。(保護者の付き添いが必要なものもあります) | <b>中級体験</b><br>小学校高学年以上を対象としますが、保護者の付き添いがあれば低学年の方でも十分可能です。 | <b>初級体験</b><br>小学校低学年以上を対象とする、比較的取り組みやすい体験です。(低学年の方は保護者の付き添いが必要なものもあります。) |

|  |  |  |
|--|--|--|
| <b>縄文時代の暮らし 1</b>  |  | 10月22日(日)  |
| <b>縄文の布をあむ</b><br>縄文時代の遺跡で発見された布の製作技法を参考に、布を編んでみます。<br>所要1時間30分 1回 定員10名 要予約       | <b>どんぐりを食べる</b><br>どんぐりは渋みがあるので調理方法も工夫が必要ですが、縄文人の主要な食材でした。<br>所要1時間 2回 各回定員10名 要予約 | <b>丸木舟をこぐ</b><br>縄文人が魚を捕るときに使用した丸木舟を再現したものを博物館の池で漕いでみます。<br>所要15分 4回 各回定員20名 要予約     |
| <b>古代の玉をつくる</b>  |  | 11月5日(日)   |
| <b>トンボ玉づくり</b><br>古墳時代の県内出土のトンボ玉をモデルにして作ります。<br>所要1時間30分 1回 定員10名 要予約              | <b>かつ石でつくる勾玉</b><br>やわらかいかつ石を材料に、削って、磨いて勾玉を作ります。<br>所要1時間30分 2回 各回40名 要予約          | <b>い型でつくるガラス玉</b><br>石膏で作った鑄型に、溶かしたガラスの破片を入れてガラス玉を作ります。<br>所要30分 4回 各回定員8名 要予約       |
| <b>平安貴族の暮らし</b>  |  | 11月19日(日)  |
| <b>ぎっちょう大会</b><br>平安時代の貴族の球技です。現在のホッケーのようにスティックで球を打ち合います。<br>所要1時間30分 1回 3人編成 8チーム | <b>こうちぎを着る</b><br>貴族が身につけた衣装を復元してみたものを実際に着て、着心地を試してみます。<br>所要15分 2回 各回定員5名 要予約     | <b>古代食・ふずくづくり</b><br>奈良平安時代の貴族が口にしていた、中国伝来の貴重な食品を製作・試食してみます。<br>所要15分 4回 各回定員10名 要予約 |
| <b>縄文時代の暮らし 2</b>  |  | 12月3日(日)   |
| <b>縄文のクシづくり</b><br>縄文時代の女性が挿した櫛をモデルに、装飾性の高い赤漆の櫛を作ります。<br>所要1時間30分 1回 定員10名 要予約     | <b>石器づくり</b><br>黒曜石を打ち砕いて鏃を作ります。また弥生時代の石包丁も作ってみます。<br>所要1時間 2回 各回定員10名 要予約         | <b>弓矢でえものをねらう</b><br>石製の鏃を付けた矢を使い、丸木で作った弓で縄文人が食料にした獲物を狙います。<br>所要15分 4回 各回定員20名 要予約  |

|  |  |  |           |  |  |
|--|--|--|-----------|--|--|
| 伝統の技にせまる   |  |  | 12月17日(日) |  |  |
| 切り紙づくり<br>正月を迎えるときに宮城県で飾られる切り紙をつくってみます。<br>所要1時間30分 1回 定員10名 要予約           | 銅鏡づくり<br>鋳型にるつぼの中で溶かした青銅を流し込み、銅鏡を作ってみます。<br>所要1時間 2回 各回定員10名 要予約                               | 和菓子づくり<br>菓子職人さんが使った木型を使い、ほんのり甘い打ち菓子を製作・試食します。<br>所要30分 4回 各回定員10名 要予約 |           |  |  |
| むかしの遊び   |  |  | 1月7日(日)   |  |  |
| ばんすごろく大会<br>サイコロを振ってコマを進める双六ですが、江戸時代の双六は今とはちょっと違います。<br>所要1時間 1回 定員10名 要予約 | 昔おもちゃ遊び<br>自然にあるものを上手に利用して、おもちゃを自分で作って遊んでみよう。<br>所要1時間 2回 各回定員10名 要予約                          | おもちゃづくり<br>身近な材料を使って簡単にできる、からくりおもちゃを作ってみなで遊ぼう。<br>所要30分 4回 各回定員10名 要予約 |           |  |  |
| むかしのくらし  |  |  | 1月21日(日)  |  |  |
| わらゾウリづくり<br>むかしの人が履いた、ワラ製のゾウリをつくってみます。<br>所要1時間30分 1回 定員10名 要予約            | 石臼をひく<br>硬い大豆を石臼で挽いて粉にして、きなこを作ってみよう。<br>所要20分 2回 各回定員10名 要予約                                   | 和紙をすく<br>楮を材料に、水の中で漉いてはがき大の和紙を作ります。<br>所要30分 4回 各回定員10名 要予約            |           |  |  |
| 金属を楽しむ   |  |  | 2月4日(日)   |  |  |
| かじを体験しよう<br>フイゴを使って風をおこし、炭火で真っ赤に熱した鉄を打ち、ペーパーナイフを作ります。<br>所要30分 1回 定員5名 要予約 | 空き缶カンテラづくり<br>電気がなかった時代に使われたカンテラ。これを身近にある空き缶を使って作り、なかにろうそくの明かりを灯してみよう。<br>所要1時間 2回 各回定員15名 要予約 | 砂金とり<br>水中の砂をすくってふるい、比重の違いを利用して砂と金を採り分けます。<br>所要30分 4回 各回定員18名 要予約     |           |  |  |

|               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
|               |               | 10:30 ~ 11:00 |
|               | 11:00 ~ 12:00 |               |
|               |               | 12:30 ~ 13:00 |
| 13:00 ~ 14:30 |               | 13:30 ~ 14:00 |
|               | 14:30 ~ 15:30 | 14:30 ~ 15:00 |

\*それぞれの歴史体験教室の実施時間です。お申し込みの際は、**体験名と何時からの部**に希望するかをご連絡ください。

## 東北歴史博物館の利用について

東北歴史博物館では、当館施設の利用・展示見学について、下記の要領でのお申し込みをお願いしております。

### 1 見学予約について

・見学の日時がお決まりになりましたら、当館の管理部情報サービス班までご連絡下さい。

(電話:022-368-0106)

・お申し込みの際は、次の事項についてお知らせ下さい。

「ご見学の日時」・「学校名」・「学年」・「ご見学の人数(引率者を含む)」・

「電話番号(FAX番号)」・「利用目的・利用施設」・「引率責任者のお名前」・

「ご来館の交通手段」・「お下見の有無」

### 2 事前来館(下見)について

・展示内容や施設・設備、見学の流れなどを事前にご確認いただき、当日の見学にご活用下さい。その際は、当館情報サービス班か教育普及担当の職員が対応させていただきます。

・事前来館(下見)の際は、その日時を事前に情報サービス班までお知らせ下さい。

### 3 博物館からのお願い

・以下の注意事項を、事前にご指導いただいたうえでご来館ください。

館内では、他のお客様の迷惑になりますので、大声をだしたり、走ったりしないでください。

館内では、ジュースを飲んだり、お菓子を食べたりしないでください。

展示室内では、展示物やガラスに触れないでください。

展示室内でのメモは、鉛筆・シャープペンシルだけを使ってください。なお、解説パネル等のうえでは書かないでください。

## 予約受付や展示内容等の問い合わせ先

東北歴史博物館情報サービス班

985-0862 宮城県多賀城市高崎一丁目22-1

電話 022-368-0106

FAX 022-368-0103

URL <http://www.thm.pref.miyagi.jp>

e-mail: [thm-service@pref.miyagi.jp](mailto:thm-service@pref.miyagi.jp)